

第二期まち・ひと・しごと創生総合戦略実績報告書(令和4年度)【概要】

【基本目標1 まちの魅力を向上させ、新たなひとの流れをつくる】

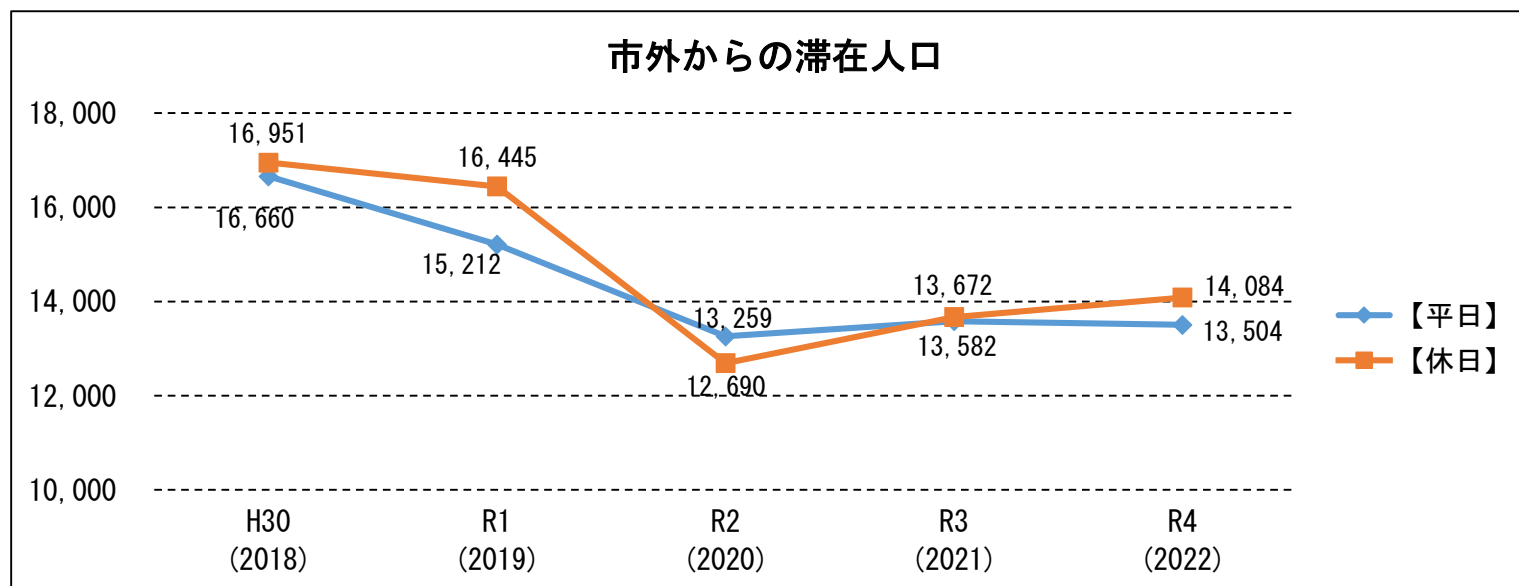
1 数値目標

指標	評価	R4
		現況値(※1)
市外からの平日の滞在人口	△	13,504人
		16,660人
市外からの休日の滞在人口	△	14,084人
		16,951人

【指標の評価について】

- ◎：目標値達成(目標値以上)
- ：現況値超目標値未満
- △：現況値以下
- ：数値が判明していない等

※1 現況値：平成30年度



※ 2022年の数値は1月から6月までの平均値

2 具体的施策（7施策25事業）

施策	評価					計
	重要業績指標 (K P I)	主要要因 (C S F)				
		◎	○	△	—	
戦略的な情報発信	○	0	3	1	0	4
創業を希望している市民への支援	○	1	0	1	0	2
産業の振興と雇用の促進	△	3	0	2	0	5
時代のニーズに対応する農業の創造	○	0	1	3	0	4
個性豊かな観光施策の推進	△	1	3	2	1	7
利便性の高い公共交通網の形成	△	0	1	0	0	1
にぎわいと活力ある魅力的なみち・まちづくり	◎	1	1	0	0	2
合 計	—	6	9	9	1	25

3 総論

【総括】

- 交流人口の増加の視点から施策を展開している。
- 数値目標に掲げる「滞在人口」については、新型コロナウイルス感染症の影響で低迷していたが、やや持ち直しつつある。
- 現況値と比較すると、半数以上の事業が現況値を上回っている。

【施策別】

- 「戦略的な情報発信」については、新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着いてきたことから、昨年度に比べ実績値が減少しているものの、現況値を上回った事業が多い。
- 「創業を希望している市民への支援」については、新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着いてきたことから、現況値を上回った事業が増加した。
- 「産業の振興と雇用の促進」については、昨年度に比べ現況値を上回る事業が増加した。
- 「時代のニーズに対応する農業の創造」については、現況値を上回った事業は2事業となった。
- 「個性豊かな観光施策の推進」については、イベントの中止やかたくりの湯の感染症対策等の制約のある中での営業など新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、K P Iの実績値が現況値を下回った。
- 「利便性の高い公共交通網の形成」については、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、K P Iの実績値が現況値を下回った。
- 「にぎわいと活力ある魅力的なみち・まちづくり」については、全ての事業で現況値を上回っている。

【基本目標 2 若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶える】

1 数値目標

指標	評価	R4
		現況値（※1）
合計特殊出生率	△	1.21（※2）
		1.55
「武蔵村山市は安心して子どもを産み育てることができるまちだと思う」人の割合	—	調査未実施
		72.1%

【指標の評価について】

◎：目標値達成（目標値以上）

○：現況値超目標値未満

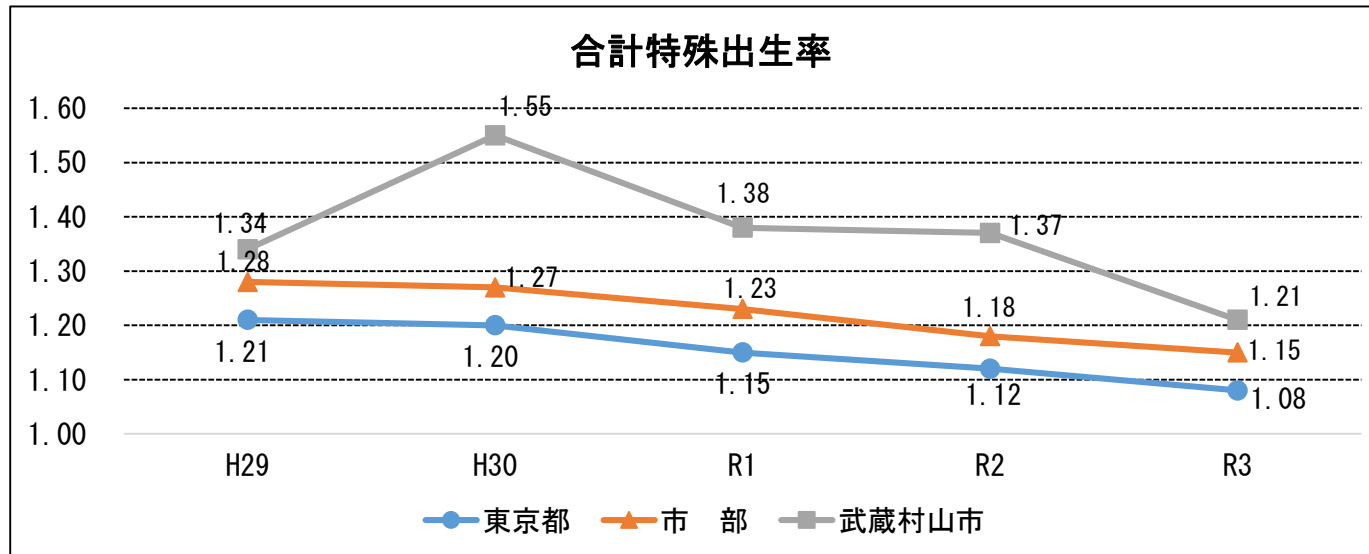
△：現況値以下

—：数値が判明していない等

※1 現況値：平成30年度

※2 合計特殊出生率については、例年、冬頃、区市町村別の数値が公表される。

そのため、実績値は前年の数値である。



2 具体的施策（4施策20事業）

施策	評価					
	重要業績指標 (K P I)	主要要因 (C S F)				
		◎	○	△	—	計
結婚・妊娠・出産・子育てへの支援	◎	5	1	2	0	8
子育てしやすいまちづくり	—	2	1	2	1	6
子どもの知力・体力の向上	◎	0	0	3	1	4
教育環境の整備	△	0	0	2	0	2
合 計	—	7	2	9	2	20

3 総論

【総括】

- 年少人口及び将来的な生産年齢人口の増加を図る視点から施策を展開している。
- 数値目標に掲げる「合計特殊出生率」については、現況値と比較すると減少しているが、49区市で10番目の数値である。(令和3年度実績)
- 数値目標に掲げる「武蔵村山市は安心して子どもを産み育てることができるまちだと思ふ」については、計画策定時のアンケート調査項目であり、令和4年度はアンケート調査を実施していない。
- 現況値と比較すると、おおよそ半数の事業が現況値を上回っている。

【施策別】

- 「結婚・妊娠・出産・子育てへの支援」については、新型コロナウイルス感染症の影響下でも多様な保育サービスを継続し、半数以上の事業が目標値を達成している。
- 「子育てしやすいまちづくり」については、KPIが計画策定時のアンケート調査項目であり、令和4年度はアンケート調査を実施していないため、数値が不明である。
その他事業については、現況値を上回った事業が増加した。
- 「子どもの知力・体力の向上」については、KPIが目標値を達成した。
ただし、その他事業については、調査未実施のものを除き、全ての事業において現況値を下回った。
- 「教育環境の整備」については、全ての事業において、現況値を下回った。

【基本目標3 誰もが安心して暮らし続けられる地域をつくる】

1 数値目標

指標	評価	R4
		現況値（※1）
これからも本市に住み続けたいと思う人の割合	—	調査未実施
		31.1%
20歳代の転出者割合	△	13.3%
		12.6%

【指標の評価について】

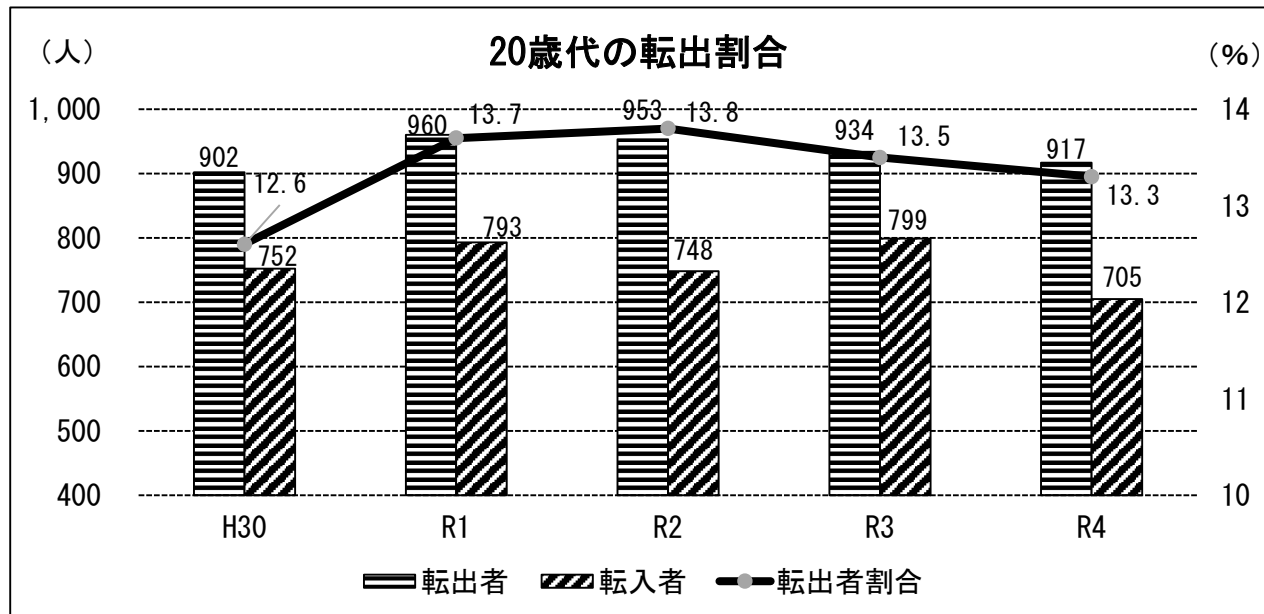
◎：目標値達成（目標値以上）

○：現況値超目標値未満

△：現況値以下

—：数値が判明していない等

※1 現況値：平成30年度



2 具体的施策（3施策14事業）

施策	評価					
	重要業績指標 (K P I)	主要要因 (C S F)				
		◎	○	△	—	計
交通利便性や買い物環境の向上に向けたまちづくり	—	1	0	1	0	2
安心して暮らせるまちづくり	◎	1	1	0	0	2
健康でいきいきと暮らせるまちづくり	—	3	3	4	0	10
合 計	—	5	4	5	0	14

3 総論

【総括】

- 「住み続けたい」と思うまちづくりを進める視点から施策を展開している。
- 数値目標に掲げる「これからも本市に住み続けたいと思う人の割合」については、計画策定時のアンケート調査項目であり、令和4年度はアンケート調査を実施していない。
- 数値目標に掲げる「20歳代の転出者割合」については、転出者及び転出者割合が減少しているものの、転入者も大きく減少しており、転出超過の状態が続いている。
- 現況値と比較すると、半数以上の事業が現況値を上回っている。

【施策別】

- 「交通利便性や買い物環境の向上に向けたまちづくり」については、KPIが計画策定時のアンケート調査項目であり、令和4年度はアンケート調査を実施していないため、数値が不明である。
- 「安心して暮らせるまちづくり」については、防災対策を計画的に行ったため、KPIの目標値を達成するとともに、全ての事業で現況値を上回った。
- 「健康でいきいきと暮らせるまちづくり」については、KPIが計画策定時のアンケート調査項目であり、令和4年度はアンケート調査を実施していないため、数値が不明である。
なお、半数以上の事業において、現況値を上回っている。

【外部有識者（まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会）からの意見】

1 全体

- 委員会においては様々な意見が出ており、特に広報分野、中でも市外へのPRについては、毎年課題として挙がっているところである。
どこかで行動に移さないと、毎年同じ話をして終わってしまう。庁内全体で広報のプロジェクトチームを組むなど、広報分野に限らず、何か一歩取組を進めていただけるとよい。
- 広報分野のみならず、庁内連携（各課を超えた横断的な事業の実施）が求められる事業が複数あり、今後の課題となっている。
今後、ますます各課の連携が必要な事例が増えてくると思われるため、連携体制を構築していただきたい。
- 高齢化による担い手不足について、そのままにしておくと、数年後には本当に担い手がいなくなってしまう。
今のうちから、若い世代が自ら何らかの活動に参加するような仕掛けを作っていくなど、庁内全体で取り組んでいく必要があると思われる。
- 仕組みや担い手など、若い世代や今の時代に合わせた方法を考えていく必要がある。

2 基本目標1 まちの魅力を向上させ、新たなひとの流れをつくる

【広報】

- 広報担当部署と他部署が連携し、市全体で市のPRを行うよう徹底した方がよい。
- 「何を目的に」「誰が」「何を」発信するかということが重要である。
また、伝えた先に何を指すのかという点を全員が意識していないと、単に伝えておしまいになってしまう。
- 市からでは行いづらい情報発信であれば、観光まちづくり協会にお願いしてはどうか。
また、市外の方に情報発信してもらったり、マスコミを活用して情報発信するとよいと思う。
- 観光まちづくり協会のホームページについて、内容を充実させる必要がある。
- 地域ブランド認証事業自体を強くPRすることで、認証されれば多くの人に知れ渡るということが分かり、応募件数が増えると思われる。
- どのように市のSNS等の存在を周知していくかという点もポイントになると思われる。
- 市長自身が広告塔となり、市外等に向けて動いていくことも必要だと思われる。

【観光】

- 市内に道の駅があるとよい。東京都内には一つしかないため、話題性もあり、市外から人を呼ぶ観光資源になる。
- かたくりの湯について、屋根にソーラーパネルを設置するなど、脱炭素を図りながら、事業者の負担を減らして再度オープンさせるという方法はどうか。
- 野山北公園プールをオープンしていない間キャンプ場として活用するなど、温泉施設の周辺一帯をうまく活用できるとよい。
- 観光農園について、場所や開園しているのかといった情報がわかりづらいため、情報を取りまとめて発信できるとよい。

【農業】

- 市民が持て余している農地を市で借りて、農業をやりたい人に提供してはどうか。農業をやりたい人は市外にとても多く、地元の方と観光客が交流できる場や、高齢者が若い世代とつながる場になり得る。
- 農地の持ち主の高齢の方に指導をお願いするのではなく、市外の指導者と連携して、農地だけ使わせていただく仕組みを作ることもできるのではないか。

【まちづくり】

- モノレールが来るということは素晴らしいことだが、モノレール延伸とは別に、今ある市の資源を使って、どう市の魅力をアピールしていくか、作っていくかということが大事である。
今から5年後や3年後、現在の武蔵村山市をどうするかなど、もう少し近い目線で行動すべきではないか。
- 地元の企業が主体となって、まちづくりについて意見を出し合う場があるとよいと思う。

3 基本目標2 若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶える

【子育て】

- 子ども・子育て応援ナビ（アプリ）について、登録者数も大事だが、妊娠する方が増えないと登録者数は増えないため、登録された割合を目標にした方がよい。
- 子育て家庭に対する配布物について、内容がジェンダーバイアスのないものになっているか、男女共同参画センターや協働推進課と連携しながらチェックをしても良いと思う。
- 妊産婦や市民の方にとって、ハグはぐ・むらやまはとても心の拠り所になる存在だと思うので、ぜひ大切に育てていただきたい。
- 母子手帳の最後のページに、武蔵村山市独自の情報のページを作ったり、QRコードを載せることで、予防接種や子育て支援等の窓口へのアクセスが容易であったり、どこの窓口に行けばよいか分かるものになっているとよい。
- ワーク・ライフ・バランス推進事業所の認定について、広報をすることによって企業はPR的なインセンティブが得られると思われるため、市でも様々な機会でのPRに取り組んでいく必要があると思う。
それが応募件数の増加や、市内事業所の意識改革にもつながると思われる。

【教育】

- 不登校児問題について、両親にも何か手厚い支援やケアサポートがあるとよい。みんなで助け合いながら、横のつながりを作っていただけるとよいと思う。
- 不登校特例校等について、多様な子どもたちの居場所という意味で検討を続けてもらえると思う。

4 基本目標3 誰もが安心して暮らし続けられる地域をつくる

【健康】

- 健康教室について、教室の名称を「〇〇入門」とすると、新規の方が来やすいのではないかと思う。内容を、新規の方を呼び込めるようなものにしていただけるとよいと思う。
- ゲートキーパー研修について、市内小中学校の教員も再度対象に入れていただいた方がよいと思う。
また、対象を地域の方にも広げ、職員と一緒に自殺防止のために推進していくという考え方もよいと思う。

【防災】

- 自主防災組織の高齢化は、少し不安があると思うので、若年層への啓発活動も併せて行っていただけるとよい。
- 若い世代と高齢者の共通言語となるものを作り、自分たちのまちだという自覚をもってもらうことが大切である。
その共通言語となり得るのは防災かと思うので、庁内で横断して取り組んでもらえるとよい。

【その他】

- むらたくについて、利用者が固定化しないよう、広くいろいろな方に利用していただけるものになるとよいと思う。
- 自治会について、自治会という形にこだわらず、時代の変化に合わせたつながり方を考えた方がよいと思う。
自治会を設けていない武蔵野市に意見を聞いたり、今はネットでつながっているため、それを活用してネット上でつながれるような仕組みを検討してはどうか。